

実り豊かな生活文化都市

中央市

 議会だより

2009年3月1日発行

第12号

発行 山梨県中央市議会

発行人 議会議長 山本国臣

編集 議会広報編集委員会

わくわくドキドキ!!



読み聞かせの会（玉穂生涯学習館 豊富図書館）

■ 12月定例会で決まったこと	2～3
■ 第1回臨時会で決まったこと	4
■ 市長の行政報告	5
■ 一般質問に11議員	6～11
■ 委員会レポート	12～13
■ 市民の談話室・編集後記	14

12歳まで医療費を無料化

—— 12歳まで医療費 ——

平成二十一年中央市議会第四回定例会は、十二月九日～十九日までの十一日間の日程で開催されました。

平成二十一年度一般会計補正予算をはじめ、条例三件、補正予算七件、路線認定二件、請願一件が提案され、それぞれ常任委員会に付託し審議し、最終日に全ての案件について可決しました。請願については、採択し市長に送付し、三月定例会までに結果の報告を求めることとしました。

条例の改正

・手数料条例中改正

県より土地譲渡益重課税制度および長期譲渡所得課税の特例制度にかかると優良宅地認定事務が本市に移譲されたことに伴い、手数料の改正を行うもの。

また、全国規模で推進している住民基本台帳カードの普及促進に対応するため、住民基本台帳カードの交付手数料を、平成二十一年一月一日から

無料にするため条例の一部改正を行なうもの。

・乳幼児医療費助成金支給条例中改正

市民が安心して子育てのできる環境への更なる支援と、深刻化する少子化の対策として、医療費助成金支給対象年齢を平成二十一年四月から、六歳から十二歳までに引き上げるため、中央市乳幼児医療費助成金支給条例の一部を改正するもの。名称も乳幼児医療費から子ども医療費に改正する。

・国民健康保険条例中改正

平成二十一年一月一日から、分娩に関連して発症した重度脳性麻痺児に対する補償の機能と、脳性麻痺の原因分析および再発防止の機能を併せ持つ制度として、産科医療補償制度が実施される。この制度加入分娩機関

で出産した被保険者の保険料負担に対応するため、出産育児一時金の引き上げが必要となり、中央市国民健康保険条例の一部を改正するもので、産科医療保障制度に加入している医療機関で分娩した場合に、三五万円に三万円を加算する内容。



4カ月児検診

補正予算

平成二十一年度一般会計補正予算 (第4号)

補正額

八、〇六五万円

予算総額

一一六億八九八万円

へおもなもの

▼歳入

各事業にかかる国および県の支出金、地方交付税、繰越金、地方特例交付金等。

▼歳出

要介護認定保険システム改修、乳幼児の医療費助成の電算システム改修、次世代育成延長保育事業、生活保護扶助事業、玉穂福祉・保健・教育拠点施設の外構整備工事増工分、農業用施設の省エネ整備にかかる助成事業、道路橋梁維持事業に自治会要望の緊急補修工事、玉穂中学校の駐輪場増設工事等。

例会で
たこと

12月定 決まっ



下水道工事(田富庁舎付近)

国民健康保険特別会計補正予算 (第3号)

補正額

四、四四六万円

予算総額

二五億二、〇九八万円

簡易水道事業特別会計補正予算 (第2号)

補正額

四三六万円

予算総額

二億九、四五二万円

下水道事業特別会計補正予算 (第3号)

補正額

九、三八七万円

予算総額

一五億五、六九二万円

介護保険特別会計補正予算 (第3号)

補正額

△一〇七万円

予算総額

一三億三、九六五万円

農業集落排水事業特別会計補正予算 (第3号)

補正額

△一、二〇六万円

予算総額

三億二、一六三万円

上水道事業会計補正予算 (第2号)

収益的支出

補正額

九〇九万円

予算総額

三億四、三〇三万円

資本的収入

補正額

二億五九〇万円

予算総額

二億三、五九〇万円

資本的支出

補正額

二億五九九万円

予算総額

三億六、〇八〇万円

路線認定・変更

・中央市道路線認定

桃林橋南バイパスの開通により主要地方道甲府市川三郷線の一部が市に移管されるため。

・中央市道路線変更

中山間地域総合整備事業による大鳥居線(仮称)および豊富農村公園施設間連絡道新設に伴い市道認定する案件と、豊富農村公園施設間連絡道新設に伴い、区域内の路線を変更するため。

請願

父子家庭や母子家庭を「ひとり親家庭」として平等な取り扱いとする請願書

請願者

山梨県父子家庭の会

代表

紹介議員

佐野 臣功
伊藤 公夫

〈要望〉

母子・父子という適用区分でなく「ひとり親家庭」として平等に取り扱い、児童扶養手当や母子家庭自立支援給付金など、国の制度の対象外となっている父子家庭に対する経済的支援の実施を市に要望するもの



第1回臨時会

平成二十一年第一回臨時会は、一月十三日に開催され、当初会期を一日としましたが、十六日までの四日間に延長しました。

一般会計補正予算（第5号）をはじめ、条例一件、予算二件が提案され審議しました。十六日に審議の結果、原案のとおり可決しました。

条例関係

・特別会計条例中改正

高部地区への工業用地整備事業の実施に伴い、特別会計を設置するもの。

賛成討論（要旨）

今の経済情勢が大変厳しい状況の中で、企業誘致計画は、本市の振興のカンフル剤となる。

県の支援を受けられ、メリットがある。

地域雇用、産業の創出、これが財政再建へ向けての大きな一歩になる。

反対討論（要旨）

一〇〇年に一度といわれる世界的な不況が進行している。

県のバックアップを受け、誘致するが、誘致して企業が来なかったときのリスクを考えると、疑問。

また、行財政改革大綱の趣旨に反するものと考ええる。

高部工業団地視察



「記名投票の結果」

▼賛成者（十一票）

名執義高 伊藤公夫
石原芳次 関 敦隆
小沢 治 田中健夫
内藤 進 福田清美
保坂 武 大沼芳樹
一瀬 満

▼反対者（八票）

一瀬 明 小池満男
長沼辰幸 井口 貢
野中つね子 宮川弘也
設楽愛子 山村 一

予 算

■一般会計補正予算（第5号）

補正額 二、六〇〇万円

予算総額 一一六億三、四九七万円

＜内容＞

▼歳入

財政調整基金からの繰入金。

▼歳出

工業用地整備事業特別会計への繰出金。

設楽議員より、反対討論があり、起立採決の結果、起立多数で可決しました。

反対討論（要旨）

工業団地の推進は住民もかなり批判的である。先の見えないうちの中で、将来的にもう少し先に延ばすべきだとの声が多い。

税金を有効に使わなければならない。

■工業用地整備事業特別会計予算

予算総額 二、六〇〇万円

＜内容＞

▼歳入

一般会計からの繰入金。

▼歳出

用地整備実施設計等委託料。

起立採決の結果、起立多数で可決しました。

3月議会予定

3月議会は、次のとおりの予定です。なお、当初予算の審議は試行的に特別委員会で行う予定です。お気軽に、傍聴においでください。

3日（火）	午前10時	開会
4日（水）	午前9時30分	総務教育常任委員会
5日（木）	午前9時30分	厚生常任委員会
6日（金）	午前9時30分	産業土木常任委員会
9日（月）	午前9時30分	予算特別委員会
10日（火）	午前9時30分	予算特別委員会
12日（木）	午前9時30分	予算特別委員会
13日（金）	午前9時30分	予算特別委員会
16日（月）	午前10時	代表質問
17日（火）	午前10時	一般質問
18日（水）	午前10時	一般質問（予備日）
19日（木）	午後2時	閉会

※日程等は定例会前の議会運営委員会で決定されますので、変更される場合があります。ご了承ください。

交通死亡事故ゼロ 1000日達成

県内の市で初の快挙！

交通安全街頭指導（玉穂地区）



12月定例会

田中市長の行政報告

1 第二次行財政改革 大綱・実施計画

「市役所改革」「財政改革」「行政サービス改革」の三つを改革の柱と定め、市民と行政の協働で、市の将来像である「実り豊かな生活文化都市」の実現を目指します。

2 乳児医療費 助成の拡大

医療費の窓口無料化を小学校六年生まで拡大し、

子育て世代の経済的負担と、医療費の軽減を図ります。

3 農業施設園芸等原油 高騰緊急対策事業

農業生産にかかるコストが増加し経営を圧迫している中、省エネルギー・産地化体制維持のため、補助金の交付を行います。

4 保育所民営化 検討委員会設置

中央市公立保育所民営化検討委員会を昨年十月に設置、今後の健全な運営のあり方、子育て支援のベストなやり方などを検討していきます。

5 税等収納率 向上対策

昨年十二月を滞納整理強化期間に定め、取り組みを実施し、職員による訪問徴収を行ないました。税等を払いたくても払えないなど事情のある方の納税相談窓口も開設し、早めの納付をお願いしました。

6 交通死亡事故ゼロ 1000日達成

市民の交通安全に対する高い関心と意識が実を結び、合併後から昨年十一月十五日で1000日を達成、県から表彰を受けました。

7 福祉灯油購入費 等助成事業

高齢者、障害者、ひとり親世帯の助成対象世帯に、家計の負担軽減と福祉の増進として、助成金の支払い支給を行いました。

8 年金記録、後期 高齢者医療等の 対応

関係機関と連携し、月二回の年金相談所を開設しました。後期高齢者（長寿医療）制度の趣旨普及など、制度の理解を得るため広報での推進、各地区での説明会も行いました。

● 議会の動き ●

11月

1日 文化祭

3日 稲穂まつり

5日 議会広報編集委員会

6日 議会運営委員会

代表者会議

13日 議会改革推進委員会視察研修

16日 グラウンドゴルフ大会

18・19日 常任委員会合同視察研修

21日 中巨摩広域協議会

25・26日 甲府広域議員視察研修

26日 東八広域議会

8日 三郡衛生組合協議会

9日 第四回定例会開会

11日 一般質問

12日 一般質問

15日 総務教育常任委員会

会

16日 厚生常任委員会

17日 産業土木常任委員会

会

19日 甲府広域協議会

24日 第四回定例会閉会

25日 三郡衛生組合協議会

水道審議会

中巨摩広域協議会

甲府広域議会

26日 東八広域議会

12月

2日 議会運営委員会

代表者会議

3日 山梨県知事と市議会議長との懇談会

4日 新エネルギービジョン策定委員会

7日 社会福祉大会

平成21年1月

5日 役職員新年互礼会

6日 議会運営委員会

9日 議員全員協議会

12日 成人式

13日 第一回臨時会開会

16日 第一回臨時会閉会

23日 議会広報編集委員会

一般質問

十一議員が登壇

12月
定例会

十二月定例会では十一人の議員が一般質問に立ち、二十五項目にわたって市の方針をただしました。この記事は質問・答弁を要約したものです。詳細は市ホームページの議会会議録をご覧ください。

Q 宇坪川、清川の改修について



田中健夫 議員

ほか1件

田中議員 毎年、集中豪

雨により旧田富の布施、東花輪などが洪水に悩まされている。

①宇坪川の改修には、地籍上複雑な問題があるようだが、早期の改修が望

まれる。

②清川の改修には、川底を掘り下げる計画があるが、工事の予定は、

③鎌田川の改修は、身延線の鉄橋工事と絡み、長期化が予想される。東花

輪地区の湛水防除は、とりあえず仮設工事で稼働できないか。

A 県と協議し早期の完成を図る

市長 ①再三、県へ要望

してきたが、用地境界の確認が難しく、二十一年度から田富地区の地籍調査を実施する予定。調査を踏まえ、地権者と周辺住民の同意を得て県と協議したい。

②大規模な改修は困難とのことで、県で改修工事への協議を国と進めており、国の承認があれば、二十一年度に詳細設計に取りかかるとの前向きな回答

を得ている。

③東花輪川地区湛水防除事業は、県の県土整備部



清川下流の湛水防除

Q 2008稲穂まつりに感じたこと

問 二十年度の稲穂まつりは盛大に行われたが、障害者トイレの前には長

A 障害者専用トイレを増設する

蛇の列ができていた。二十一年度には、市民体育館や周辺に、障害者用トイレの増設を望む。

市長 既設の障害者専用トイレについての案内板の設置、会場内へのレンタルトイレの増設等の対応を行う。市の三大祭がすべての市民に安心して楽しめるイベントの創造に努めたい。

Q 市民の命 地下水汚染が深刻



関 敦隆 議員

ほか1件

関議員 ①中央市の生活水源は、多くを地下水に依存している。過去五年の地下水の検査表によると、硝酸性窒素による汚染が進んでいる。県からの調査・指導はあったのか。家畜

の糞尿による汚染の防止対策は。

②硝酸性窒素による地下水の汚染は、化学肥料が原因で、特に農村で重大な問題となっている。堆肥の推進が、地下水保全と食の安全安心のために最善の方法と考える。家畜排泄物の堆肥化には費

用がかかるが、助成が必要ではないか。

A 安全対策を講じる

市長 ①山梨県は毎年、

硝酸性窒素を含む環境基準項目の測定を実施している。平成十六年度、田富の馬籠地内の井戸に飲用不可の指導を行った。十七年度と十八年度の田富白井阿原、布施、玉穂中桶地区の井戸の測定はそれぞれ基準値内だった。市独自でも主要河川と二五カ所の井戸を測定し、

結果を公表している。今後も調査を継続し、安全対策を講じていく。家畜排泄物については、保健所と合同巡回指導を毎年実施している。今年度は

二四戸の農家を調査した。②堆肥の成分による作物の選択、土壌づくりの手間助成額等さまざまな課題があるが、検討していきたい。

Q 農業は福祉

問 シルクの里振興公社の農地流動化事業、講習会等の内容は。高齢農業

者への補助、新規就農者への土壌分析費用補助や指導の実施は。

A 経営アドバイザー二名を採用

市長 振興公社は、今年度二名の経営アドバイザーを採用した。野菜やイチゴ栽培など、六回の講習会に三七名が参加。新規就農者の相談・指導は九件。農地保有合理化事業の実施面積は一ヘクタール、農家戸数一六。農村景観保全事業面積は二・七ヘクタール。就農高齢

者への金銭的支援ではなく、農業政策全体での視点で支援を検討する。土壌検査は県の農業総合技術センターを活用する。



自噴井戸

Q 中央市の不況対策について



一瀬 満 議員

ほか1件

一瀬議員 百年に一度ともいわれる世界的な金融危機が、日本の実態経済を悪化させている。①市の財政にとって重要な税の徴収業務に、人的不足の恐れはないか。

②県は経済危機に備え、公共事業を前倒しして、三三億円の予算を組んだ。市として同様な措置を講ずる考えはあるか。

③誘致企業のパイオニアと株式会社コイケが撤退した。その後の入居企業の予定はあるのか。④失業対策は。

A 国の第二次補正予算に迅速に対応する

市長 ①医大南部区画整理地内の新築家屋、土地

遺贈の増加による固定資産税の事務業務が増えている。住民税も十九年度の税源移譲関係、来年度からは公的年金からの特別徴収事務が増加する。市では税負担の公平、平等で適正な課税を目指しながら、収納業務を行っている。今後も関連部署と収納課の連携を密にし、

収納率アップに努める。

②金融危機は後年の税収に影響し、さらに財政運営は厳しくなる。現時点では、公共事業の前倒しは考えていない。

③誘致企業撤退後の跡地については、現在、新しい動きはない。県産業立地室と情報交換し、跡地解消に努めていく。

④地元企業への雇用斡旋のPRに努め、市外の企業にも働きかける。



東花輪駅前

Q 東花輪駅前の整備について

問 懸案となっている、東花輪駅前周辺の整備についての見通しは。

A 二十一年度に着工の予定

市長 現在、現地測量を行い、コンサルタントからの駅前整備案を検討している。今年度、基本計画と詳細設計を手掛け、二十一年度の整備工事をいう計画。

Q 学校給食の改善について



内藤 進 議員

内藤議員 世界的な不況が市民生活を直撃している。学校給食を取り巻く諸問題について

学校給食会計の実態と収納対策は。
給食費の値上げを検討しているが、市としての努力が足りないのでは。
②市の給食業務は、合併当時のままの変則的形態が続いている。給食業務の拠点を作り、一括集中するセンター調理方式を

A 調理場建設検討委員会を設置する

教育長 ①二十年十二月現在、六年からの累積で合計九三〇万五千円の未収金がある。電話や個別訪問、個別懇談の申し入れ等、督促、収納に努力している。来年度からは学校を通しての納入通知書の配付、個別懇談時における教育委員会と学校

提案する。職員の削減、食材の一括購入、統一メニュー等の効率的な運営が期待できるが。

の連携による指導を強める。過年度分の徴収は、思うように成果が上がっていないが、現年度分は極力滞納を出さないようにしたい。十九年度の徴収率は九八・五六％、本年度はさらに徴収率のアップに取り組む。
学校給食費の改定については、十一月の給食運営委員会です今年度の値上げは見送ったが、食材費の高騰、安全安心の給食、近隣自治体の状況を踏まえ、来年度は、一食当たり二十円の値上げを予定して

いる。
②玉穂地区は玉穂共同調理場で、三つの小中学校の調理を、田富小中学校給食室で二小中学校の調理を、田富北小と南小、豊富小は自校で調理している。豊富小以外の調理施設は、築年数が二十年以上経過している。調理場建設検討委員会を設置し、保護者、学校等の意見を伺いながら、提案のセンター方式、単独方式、外部委託など検討し、経費削減を図っていききたい。

玉穂学校給食共同調理場



Q 中央市の小中学校教育は



宮川弘也 議員

ほか4件

宮川議員 本来の職務に専念できるように教員の配置がされているか。

A きめ細かな指導を図っている

教育長 市独自で、六小

Q 新山梨環状道路の歩道橋は

問 スーパー街区周辺に

学校に各一名の教員を配置。外国籍児童生徒のための通訳や、少人数学級の編成をするため、計一九名の教職員を小中学校に配置している。

A 十二月末までに完成の予定

市長 山梨中銀前交差点の西側には信号機を設置。東側には歩道橋が二十一年十二月末までに完成の予定。

Q 医大正面入口に右折レーンの設置を

問 環状道路の供用開始で混雑が予想される。渋滞解消と安全確保のため

A 公安委員会等と協議する

市長 現状の幅員、交通規制上の問題等で困難が予想されるが、関係機関と協議したい。

Q ロックタウン山梨中央の現状は

問 開業して約半年になる。現状と空き店舗等の状況は。二十二年昭和町地内に開店予定のイオンモールとの競合は。

A 長期的視点で運営される

市長 八月から十月の売上は月約六億円、駐車台数は月約十五万台。空き店舗にはボウリング場が三月オープン予定。イオンモールとは形態を変えて、地域密着型の運営に努める方針。

Q 企業撤退に伴う対策は

問 市長の企業に対する雇用要請と実績は。企業撤退に伴う税の減収の見

A 選択と集中による事業の重点化を

市長 二十年六月、市内外の一二社にパイオニア従業員の雇用要請を行った。四社十名が雇用され、今後も若干名が見込まれている。二十一年度の予算に影響があるが、減収分は基金の繰入れで対応する。

込み、予算への影響は。

Q 雨水の総合的利用への転換を

ほか1件



名執義 高議員

名執義 雨水をためれば洪水の被害は軽減し、災害時の代替水源にもなる。総合的な雨水対策は、地下水をよみがえらせ、河川に豊かな流れを取り戻す。現在、墨田区など全国の

一二九の自治体が、雨水利用自治体担当者連絡会議に参加し、雨水タンク設置への補助金支給、浸透枘設置条例など先進的事例が注目されている。雨水の排除から転換を図る保水型都市として中央市のいち早い取り組みが県下に広がる呼水となる

よう望む。
①中央市においても、総合的な雨水対策、河川、下水、地表氾濫を三位一体でとらえた都市型システムを構築する必要があるが、また、歩道、駐車場生活道路は浸透性舗装にできないか。
②雨水ネットワーク、雨水利用自治体担当者連絡会議との連携、参加が望まれるが。
③雨水の貯留浸透、利用に関する市民への啓発と環境学習を実施すべきだが。

A 先進的事例に学びたい

市長 ①一定規模以上の公共施設への雨水処理システムの採用については、他の自治体の情報を収集し、渇水・洪水対策の参考としたい。浸透性舗装は、確立した技術になっていないこと、市内の地下水位が高く、効果が期待できるか、



天水源

など検討の余地がある。その他の方策も含め、自然条件の検討、財政上の制約等を踏まえ、段階的に取り組みたい。
②八月、NPOや自治体担当者、事業者、専門家が一堂に会した雨水ネット

トワーク会議が設立された。関係団体の交流、情報の共有化を積極的に進めようとしている。中央市にとっても、先進的な取り組み事例の情報収集は必要であり、参加を検討したい。
③雨水ネットワークに参加している自治体などから情報収集し、市民の理解を得るための啓発、普及方法、雨水の総合的利用について検討を行ない、市民を対象とした環境学習や周知について検討したい。

Q 地上デジタル放送の円滑な移行推進を

ほか3件



野中つね子 議員

野中議員 二〇一一年七月の地上デジタル放送の完全移行まで、二年九カ月を切った。

①難視聴地域対策と、市所有建物が原因で受信障害を起こす世帯は、

②高齢者・障害者への説明取り組みと、受信機工事に対する悪質商法・振込め詐欺対策は、

A 説明会・巡回相談を実施

市長 ①市内に難視聴地域は存在しない。また、建物の受信障害に関する

Q 緊急保証制度予約保証制度は

問 中小企業の現状をどう把握し、緊急保証制度の周知徹底をどのように行うのか。

報告はない。
②テレビ受信者支援センターが設置され、説明会や巡回相談を実施する。悪質商法・詐欺対策のため、広報誌への掲載や住民周知に万全を期す。

A 情報提供と申請事務に対応

市長 市内の企業も厳しい状況と伺っている。パンフレットやホームページ上で情報提供し、制度利用の中小企業者からの申請事務に対応する。

Q 生活支援と経済対策の「定額給付金は」

問 ①金融危機による影響と、給付金への期待は。②万全な準備が必要だが対応は。

A 景気浮揚に結び付けたい

市長 ①家計に対する支援として必要な施策で、経済効果に期待する。
②政策秘書課が事務を行なう予定で、内容が明確になり次第、早急な体制整備を行う。

Q 雇用促進住宅の譲渡・廃止は

問 市内に四棟の雇用促進住宅がある。住民の生活を守る観点での考えと購入した場合の試算は。

A 譲渡価格条件が提示された

市長 大きな費用負担が予想され、市の購入はきわめて困難、民間事業者への売却が予定されている。住宅が廃止になった場合には、市営住宅や民間住宅への入居等に対応していく。国は市が購入する場合には、土地・建物評価額の五〇％で売却を検討

市税・国保税の収入 未済・不納欠損額は



伊藤公夫 議員

伊藤議員 市税が約四億六千五百万円、国民健康保険税が約二億二千六百万円と、多額の滞納額が生じている。納税の公平性のため、滞納処分に積極的に取り組むべきだ。

① 社会情勢・経済状況の悪化で、滞納者が増加傾向にある。市は滞納者・滞納金額を少なくするように、厳しく滞納処理に当たるべきだが、滞納処理の具体策は。
② 固定資産税は法律上差し押さえが可能だが、悪質な滞納者に対する対応と、

時効前の家屋・土地差し押さえはできないのか。
③ 軽自動車税の滞納も九〇〇万円強ある。税の納入済証明書がなければ車検ができず、不納欠損額発生は理解しがたい。実情はどうか。
④ 定額給付金が交付された場合、滞納者にも交付するのか。

きた。十九年度に組織改革し、収納課を新設し、また徴収強化のため「市税等収納対策検討部会」を市民部に設置、全庁上げて体制づくりを行った。滞納者への納税相談・指導や差し押さえ処分など、税の公平、平等性を確保しながら、収納率の向上、滞納額減少に努力する。
② 収納課の設置や、専門的知識習得のため県職員

時効中断に取り組んでいる。
③ 所有者の転出・廃車時に届けが必要だが、届け出をしない所有者が多数を占めている。所有者に対し文書や電話等で住所変更・廃車の指導を毎年

行ってきたが、さらに滞納状態にある車の調査を行い、市内に現実に存在しない車両は、職権による処理を進めている。
④ 定額給付金は、支給時期・方法などが素案として示されているが、法律が国会に未提出で不確定な部分がある。税等の滞納額減少の面から、差し押さえも取組みのひとつだが、可能かどうか現段階では不確定な状況であり、「生活支援対策」「経済対策」という制度の趣旨を勘案し、検討も必要と考えている。



タイヤロック

子育て支援の さらなる充実を



設楽愛子 議員

設楽議員 安心して子どもを産み、育てやすい環境づくりのために、
① 妊産婦無料健診の公費負担の拡大を。
② 新生児の聴覚検査に助成を求める。

③ 幼児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）の課題は。
④ 「産後ママヘルパー派遣事業・「保育ママ事業」の取組みは。
⑤ 九月議会で提案した乳幼児医療費助成制度の拡充は。
⑥ 無保険家庭の子どもの

妊婦健診十四回 に拡大予定

救済を。

市長 ① 妊婦健診は少子化対策として、二回から五回に拡大し公費負担を行っている。現在、国の経済対策で十四回の拡大策が計画されている。
② 聴覚検査の有効性のため啓蒙に努めているが、検査費の助成は考えていない。
③ 一カ月以内に訪問し、一〇〇%を目標としている。育兒不安、母親の健康等

の相談などがあり、指導・助言をしている。
⑤ 条例等を今議会に提案している。
⑥ 現在無保険世帯数は三世帯、七人の子どもがいる。納付相談等を積極的に行ない、短期保険証の交付を行なっている。
保健福祉部長 ④ 子育てサポーターの育成や、養育支援ができる体制づくりを進める。「保育ママ事業」については、ニーズ等の把握を行ない必要性について検討する。

高齢者に対する 施策の充実を

問 ① 認知症対策のサポーター養成講座を。

② 肺炎球菌ワクチン接種の公費助成導入を。
③ 高齢者世帯へのふれあい収集「個別収集」は。
④ 小さいゴミ袋の作製を求める。

協力体制の整備 強化を図る

市長 ① 認知症に関する取組の必要性は感じている。今後は地域住民の広報・

啓発活動を強力に進め、地域ぐるみで認知症高齢者の見守りができるよう連携・協力体制の整備強化を図っていく。
② 任意の接種のため、助成は考えていない。
③ 高齢者のみの世帯が増加傾向にある。甲府市などの実例の情報収集を進め、検討していく。
④ 現在製造元と協議中で、価格設定を含めて検討している。

中央市財政の先行きは

ほか1件

小池満男 議員



小池議員 市政に及ぼす財政負担を考えると、厳しい状況の中でも創意工夫を凝らし、財政負担の縮小を図るべきだ。歳出削減計画の今後の取り組みについて、以下伺う。

①財源確保の短期・長期見通し。

②歳出削減方針。

③市債発行と公債費歳出の見通し。

④積立金の将来見通しと、合併後の地方債・積立金の推移。

財政健全化に努める

市長

①市税は歳入の約四割で、毎年一億円程度の減収傾向が続く。二割を占める地方交付税などは横ばいに推移し、二十八年年度から合併特例措置解除で、半減の八億円程度になる。

②行財政改革大綱に沿って、経常経費の削減や事業の重点化を図り、経常収支比率を抑える。

③多く存在するのは好ましくないで、市債発行は元金償還額を超えない範囲に抑える。

市民の安心・安全対策は

問 本市の安心・安全対策は、地形構造から見て



豪雨時の市川三郷線

も水防への取り組みが最優先だ。

①宇坪川対策として、主要地方道葦崎・櫛形・豊富線の上流部分改修見込みは。

道路排水路改良工事を実施

市長

①宇坪川改修は平成十年年度まで工事が施工され、県の全体計画路線としての区域に取り上げられている。

②中北建設事務所で測量設計を実施中で、三月に完了する予定。二十一年度から冠水防止対策事業として、道路排水路改良工事を実施する。

地域公共交通について

ほか1件



福田清美 議員

福田議員 各自治体で赤字バス路線の廃止・縮小が進む一方、高齢者の移動手段の確保が課題となっている。

①地域活性化に向けた国の支援を受け、公共交通の

四月以降に実証運行を開始する

市長

①事業認定に向け、基本運行計画として運行ルート・ダイヤ設定等、具体的な事業化計画を協議会で決定後、四月に国の事業計画認定・補助金交付決定後に、実証運行に移行する。

②実証運行は補助金交付決定後速やかに開始し、期間は三年間。料金は有料とする。

③路線はアンケート結果

「郷育の日」制定の考えは

問 家庭や地域社会の教育力の低下など、さまざま

な教育問題に直面している。市では命を大切にする教育、まごころ教育をスローガンに、実践活動や取り組みをされているが、「郷育の日」制定に向けて具体的な素案は

まごころの日（通称）制定に向け取り組み

教育長 「郷育」という言葉は用語として定着し

ておらず、「教育」であれば市町村段階でもいくつか取組んでいる例がある。中央市の教育の基本として、「まごころ」を掲げ、生きる力をはぐくむ教育、命を大切にする教育、信頼しあう教育に取り組んでいる。豊かな教育環境がつくれるよう、「まごころの日（通称）」の制定は意義深く、必要な情報を収集・研究・協議し、制定に向け取り組んでいく。

常任委員会レポート

総務教育常任委員会

▼一般会計補正予算

〈総務課〉

- 問** 臨時職員の人事異動等はあるのか。
- 答** 正規職員と同様に人事異動を行っている。
- 問** 自治振興費の電気料の増額理由は。
- 答** 電気料の改定があり、料金が上昇したため。
- 問** 職員が時間外勤務を行う方法は。
- 答** 事務内容等本人から



総務教育常任委員会

〈財政課〉

- 問** 平成二十年度当初予算と十二月補正後の地方債残高の増減は。
- 答** 約千二百万円減少している。

の申し出により、各課の管理職が許可している。

各課で時間外勤務にばらつきがあるか。

答 ばらつきがあるので、各課の人数等の増減で調整をしている。

〈政策秘書課〉

- 問** 市在住の外国人に対し、どのような行政サービスを受けたいかなど、アンケートを実施する予定は。
- 答** 国際交流協会で全県的に外国人を対象に、来年度アンケートを実施する予定。

問 外国人に対応する課を設置できないのか。

答 市民課に通訳を配置し、福祉・環境・教育関係に対応している。

課の設置は、人的・財政的な面から検討が必要。

〈管財課〉

- 問** BDF燃料車へ改造する車種、燃料の価格、今後の運営は。
- 答** デイゼル車三百十人乗りワンボックス、給

食運搬車、ステーションワゴン)、給食での廃食油を使用し、一リットル一〇〇円前後で購入する。

今後は試行的に行い、メリット・デメリットを検討し、拡大を図る。

〈教育総務課〉

- 問** 田富北小学校工事費増額の内容は。
- 答** 新一年生が三クラスとなるので、音楽教室を普通教室に改造するため。

問 田富小、田富北小の児童数が同じくらいになるよう学区の変更は。

答 複合学区等を含め検討を行いたい。

問 豊富小学校警備費の増額の内容は。

答 平成十九年度の三カ月分の警備料が本年度にきたため。

問 今後は請求書等の確認をしっかりとりたい。

答 見落としがないようチェックを行う。

問 通学路に防犯灯設置の要望は、また要望は解決しているか。

答 要望はたくさんある。全てを解決していない。

問 小学校によって、一

クラスの人数にばらつきがあるが。

答 人数が多いクラスには、市単の教員を多く配置している。

厚生常任委員会

▼乳幼児医療費助成金支給条例中改正

- 問** 条例が施行され十二歳までの医療費が無料になると、どの程度医療費が増えるか。
- 答** 五千万円ほど増加が見込まれる。

▼国民健康保険条例中改正

問 県内の産科医療機関は、産科医療補償制度に加入しているのか。

答 全医療機関(二〇機関)が加入している。

▼一般会計補正予算

問 JAへのゴミ袋作成に対する補助金の内容は。

答 袋の原料ナフサの高騰分が、小売価格へ転嫁しないよう、平成二十年十二月から四カ月間分補助金を交付する。

問 四月以降は、ゴミ袋の小売価格が上がるのか。

答 ナフサ価格の動向に

よる。現時点ではわからない。

問 ゴミ袋の小売価格の設定は慎重に願う。

答 ナフサ価格の動向、小さいゴミ袋の作成等含め検討する。

〈高齢介護課〉

問 燃料費の高騰による省エネ・他のエネルギーへの転換の検討は。

答 省エネ等に対する検討は行っていないが、施設の統廃合等を含め検討する。

〈福祉課〉

問 生活保護世帯の増加は見込まれるか。

答 景気後退に伴う、生活保護の相談は現時点ではない。

問 生活保護者への就労支援等は。

答 ハローワーク、六〇歳以上の方はシルバー人材センターにお願いをしている。

〈子育て支援課〉

問 児童館の雨漏り防水工事の増額理由は。

答 防水工事の工法を変更したため。

問 児童館でのガラスが割れた時等の子どもの安

全対策は。

答 ガラスが割れても飛び散らないよう、シートを貼る方法を考えている。

問 延長保育の子どもの数は。

答 六園で四〇人。

▼国民健康保険特別会計補正予算

問 前期高齢者交付金とは。

答 社会保険等と国民健康保険の均衡を保つための交付金。

▼介護保険特別会計補正予算

問 介護予防サービス給付費が計画値より減った理由は。

答 計画時点では介護予防サービスに重点を置いていたが、現実には予防サービスを受ける人が少なくなったため。

問 介護予防サービスを増やしたほうが、給付費も少なくなると思うがその周知等は。

答 包括支援センターで相談・周知等を行っている。

産業土木常任委員会

▼一般会計補正予算へ農政課

問 施設園芸等原油高騰緊急対策事業の補助金交付団体数は。

答 二団体で合計三二人。

へ建設課

問 住宅管理費の手数料の内容は。

答 住宅使用料口座振替の銀行等への手数料。

▼簡易水道事業特別会計補正予算

問 水道料滞納分増額分の件数は。

答 四九件分の増額。

問 水道料の滞納が少なくなるよう努力を願いたい。

答 個別相談・電話催告等を行い、徴収率を上げた。

▼市道路線認定の件

問 大鳥居141号線の幅員が狭い部分の解消を願いたい。

答 安全に走行できるように措置を講ずる。

視察報告

視察場所 岐阜県美濃加茂市

視察日時 平成二十年十一月十八日(火)

十九日(水)

美濃加茂市は、総人口に対する外国人登録者の割合が全国で最も高い市であり、多文化共生については、最重要課題の一つとして、積極的に取り組んでいる市であり、その問題達成のため、外国人のための多文化シンポジウム・フォーラム等を開催し成果をあげています。

この視察では、外国人(ブラジル)が多数在住する本市が取り組んでいる、外国人市民に関わる共存社会の構築・教育の諸問題等、施策全般について、議会として関わっていくための参考となりました。



美濃加茂市



厚生常任委員会



産業土木常任委員会

市民の談話室



高齢者の生きがいについて

極楽寺 松村 央男



定年を迎え老後をどのように過ごすかは、それぞれ違いがあろう。趣味を生かして仲間づくりをする人、これから新しい生きがいを見つけた人、家庭

庭菜園で野菜づくりを始める人もあろう。元来、大和民族は農耕民族であるので、土から生産を得ることが心の根底にあるものと思う。特に都会のサラリーマンは、家庭菜園で野菜づくりを望む人が多いようだ。

先日豊富の道の駅に行ってみた。新鮮な野菜がたくさん並んでいて、お客さんも多く評判も良いようだ。浅利の友達の話によると、豊富のお年寄りには道の駅に野菜を出すようになって、元気になったと話してくれた。高齢となり専門に農協に出すことはできないが、多品種少量栽培で、自分のスペースを開けることのないよう栽培形態も考えてつくっているのだ、ボケてる暇などないよと話していた。

これは大変すばらしいことである。頭を使い身体を使い、健康にも良いし日銭も入る。何しろ毎日が生き生きとして、張りをもって生活をしていることは、すばらしいことである。

田富地区にも直売場「た・から」ができ、出荷者は豊富地区同様と聞く。高齢者が生きがいをもって生きていくことは、市にとっても市民にとっても良いことだ。玉穂地区にも直売場ができることを望む。

シイタケ栽培と森林保全

東花輪 千須和徹志



暦の上では大寒を過ぎましたが、一年で一番寒い季節となりました。

寒い日の鍋料理に欠かせない食材にシイタケがあります。私は身延町の実家にある山で、少しばかり趣味でシイタケの栽培をしています。

十年ほど前までは、植菌をした原木をそのまま山の木陰に並べて置き、秋と春に収穫する方法でした。植えた木から二年目の春に、初めてキノコが出た時はとても感激しました。

しかし、最近はいろいろな影響で山での栽培ができなくなりました。山の持ち主の高齢化で山に入る人がなく、山は荒れ放題になっています。また、サルやイノシシ、シカなどが増えて家のすぐ近くにまで出てくる場合があります。そこで今では、原木を庭に運び栽培しています。

戦後、植林をしたスギやヒノキも手入れをせず、切り出されることもなく、そのままの状態で放置されています。

今、世の中は不況の中にあります。仕事がなく困っている人がたくさんいると聞きます。こんな時こそ、森林保全と農地の有効活用を考えてはどうでしょうか。

編集後記

一月の早朝、小学校二年生の教室へ「朝読書」に出かけた。仲間と出かける朝読書ボランティアは、もう七年になる。

張りつめた空気、朝のすがすがしい教室の中で、子どもたちが目をキラキラさせて静かに待っていてくれる。

胸がキュンとなる瞬間だ。「おはようございます!」のあいさつを済ませ、先生に手伝ってもらって、斎藤隆介作「ひさの星」と鶴見正夫作「どんぐりたろうのき」の大型絵本二冊を読んだ。

私も子どもたちと一緒に物語の世界に飛び込んだ。楽しかった。

私も小さいころどんぐりをよく拾った。かわい袋に入れて宝物にした。何度も何度も拾って、その度に、きれいなどんぐりと取り替えた。懐かしい。

どんぐりがなる「榎の木」は森の王様とよばれ、勇気と力の象徴であるとお話を聞いた。大自然の中で強い風を受けて、たくましく枝を林立させる姿は、見上げる私たちに希望と勇気を与えてくれる。

中央市の教育は心を育て、自分のためだけでなく、人のためにも尽くせる人を目指したいと思う。

そのためにも、図書館事業に力を入れ、生涯学習のすべてにわたり、その力を利用していききたい。

「野中つね子」

議会広報編集委員会

委員長 小池 満男
副委員長 野中つね子
委員 名執 義高 伊藤 公夫
一瀬 明 田中 健夫